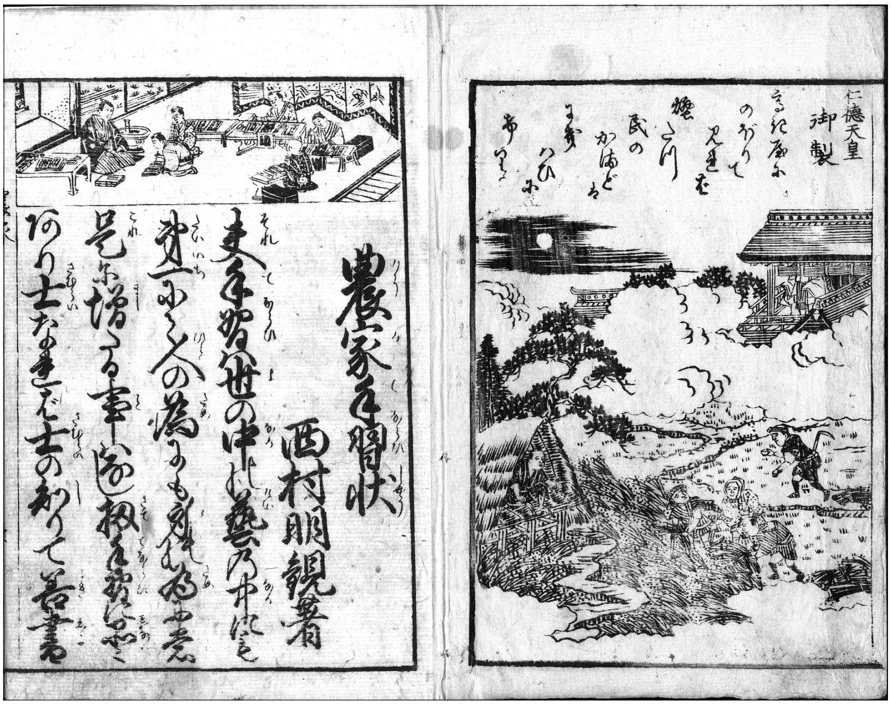
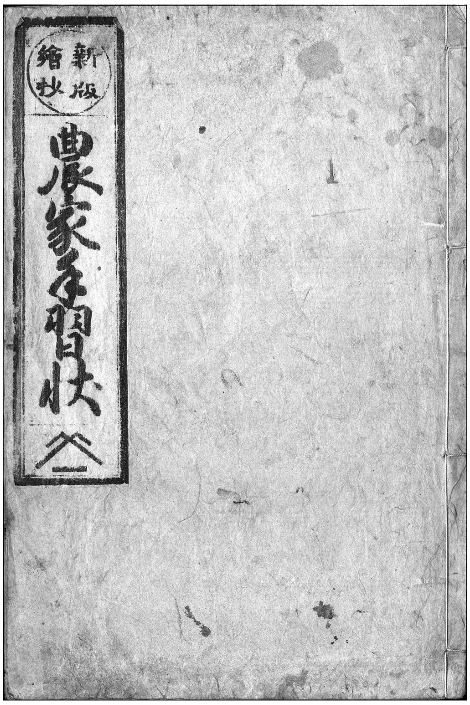
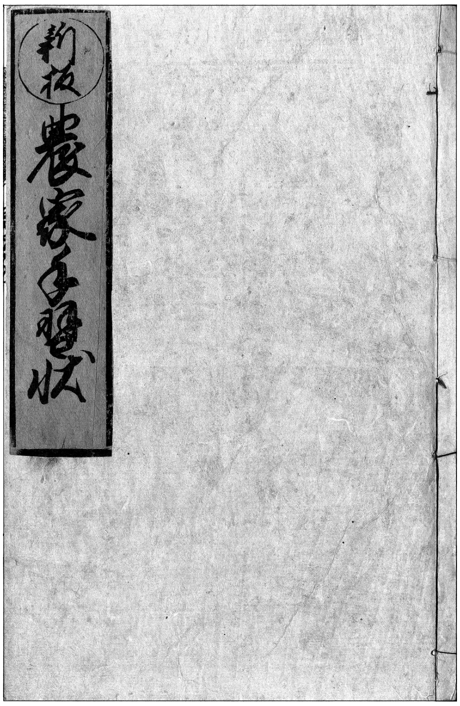
【読楽】040「農家手習状」を読む





■嘉永元年板（［仙台］伊勢屋半右衛門板）『農家手習状』（右下は刊年不明板表紙）



「農家手習状」の概要　＊『往来物解題辞典』による

〈新版絵抄〉農家手習状

【作者】西村明観（富田育斎・安美）作。

【年代】文政5年（1822）刊。［仙台］伊勢屋半右衛門板。

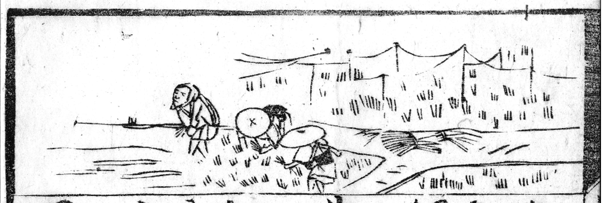
【分類】産業科。

【概要】異称『〈絵入かな付〉農家手習状』。大本1冊。『農家手習状』と称するが「手習い」の心得を諭した往来ではなく、百姓が守るべき生活教訓を記した短文である。「夫、手習は、世の中の芸の中にも第一にて、人の為にも身の為にも是に増たる事はなし…」の一文で始まり、ほぼ七五調の文章で、まず、百姓の心掛けとして公儀・法度の遵守、謹慎、喧嘩・口論の禁止、飲酒心得、博奕や虚偽の禁止などを説く。続いて、郡奉行から組頭までの諸役名や六親九族等の人倫名、身体各部の名称など若干の語彙を列挙しつつ、五倫に基づく教訓を述べ、さらに後半では農耕・農業施設・農作物・貢納に関わる基本語彙や心得を綴りながら、理想的農民像を描いて締め括る。本文を大字・6行・付訓で記す。本往来はほとんどが仙台板で、明治期に大判の一枚刷りが登場するなど主に東北地方で普及した往来である。仙台板の異板数種にはいずれも頭書に手習い図や農耕図を掲げる。なお、本書を下敷きにして綴った戯文調の往来『〈小学習字〉農家手習状』（白木柏隠作）が明治14年（1881）に刊行された。また、天明7年（1787）作・刊『農業手習教訓書』とは別内容。

【所蔵】謙堂・玉川大・国会・東大・東書・学芸大ほか。

【影印・翻刻】「往来物大系」64巻／「往来物分類集成」R34／「日本教科書大系・往来編」12巻／「近世日本教育史」（石川謙著、1931、中文館／1938、富勘書院）。

「農家手習状」を読む ＊刊年不明板の本文全文



其後(そののち)、[illegible]

[illegible]

妻子(つまこ)[illegible]

[illegible]

[illegible]

耳鼻目も[illegible]人に[illegible]業

犬畜生(いぬちくしやう)に不異(すこしもことならず)[illegible]

何事も[illegible]正直の上に立入[illegible]

[illegible]父母[illegible]孝行[illegible]

[illegible]姉(あね)や妹(いもと)や嫁(よめ)[illegible]

和(やはら)ぎ[illegible]

[illegible]

[illegible]雪霜(ゆきしも)[illegible]

[illegible]

畦(くろ)塗(ぬり)[illegible]苗代(なはしろ)や早苗(さなへ)[illegible]田植[illegible]

て田の草(くさ)切(きり)[illegible]

[illegible]稲(いね)刈(かり)[illegible]

[illegible]縄(なは)や俵(たはら)[illegible]

[illegible]人より先(さき)に[illegible]

心(こころ)も安(やす)く[illegible]楽(らく)[illegible]

気(き)[illegible]進(すゝ)みて[illegible]

[illegible]種籾(たねもみ)[illegible]大豆[illegible]

粳(うるち)糯(もち)麦(むぎ)稗(ひえ)粟(あは)黍(きび)赤小豆[illegible]雑穀[illegible]

[illegible]大根(だいこん)[illegible]

積置ぬ物沢山の事なれは居久根
林ニ者松杉檜栗槻檜椹朴
桐柳梅花桜桃梨楮木ニ至迄
るも金ニ至るまで不足する事なき様
議金持ての其上ニハ家門高く
花立て男女の下人召抱ひ馬
牛数多く牽ひ家財衣類も多け
れは困窮人ニハ物を借飢渇の
者ニハ物を與へ人を恵めハ人ハ
我を敬ひ富貴ニ人の中にも人と成
安全ニ繁栄ニ子孫も繁昌なるそ
目出度かるへく候

■下は嘉永元年板末尾

物置小屋の事なれど居久根林ニ
生茂る松杉檜栗槻檜椹朴桐
柳梅花桜桃梨楮木ニも
蓄置て不足なる事あるへからさる様
議金持ての其上ニハ家門高く花
建て男女の下人召抱ひ馬牛数
多く牽ひ家財衣類も多く
困窮人ニハ物を貸し飢渇ニ者ニハ
物を與へ人々恵たる人ニハ我も
敬ひ富貴ニ人の中にも人を敬ひ
ニ栄え子孫も繁昌成るハ
かる處也

嘉永元歳次戊申冬十月中浣再刊識
國分町十九軒
仙臺書林 裳華房 伊勢屋半右衛門 梓